

【エスなステム】

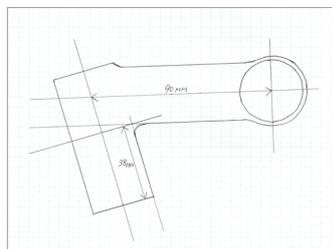
3つの“エス”～スマート・スムーズ・シンプル な“シェイプステム”～

▶2000年代中頃、Aヘッドシステムでも、ステムの首を伸ばしてスペーサーを挿入せずにハイポジションを出せるステムが「NAHBS (North American Handmade Bicycle Show)」でよく見かけられるようになっていました。クロモリ素材で主にフレーム工房で作られたものです。各所溶接ながらシンプルにまとめたモデルは美しく、このコンセプトをアルミ鍛造で多くの皆さんに供給できる物として作れないか、と考えました。ただしかし、それだけではなく3つのエスの要素を盛り込むことも命題として2008年に開発を進めました。

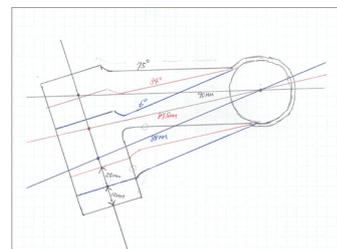
▶スマートな長い首(ハイスティック)でボルトの存在感を少なくする工夫。ハンドルクランプ4本のボルト先端は突き出ないスムーズなシルエット。コラムボルトもできる限りライダーの目につかないシンプルなもの。更に、昨今のスローピングフレームに装着した際でも、自転車全体のシルエットを美しくするための滑らかなアングルシェイプ。これらのテーマをクリアし、2009年にDixna「エスシェイプステム」として発売を開始しました。

▶その後、アメリカのツーリング系ブランドVelo ORANGEから“Tall Stack Stem”として、またアメリカサンフランシスコのブランドSOMA FABRICATIONSから“High Rider Stem”として、世界に向けて発売されるに至ったのです。

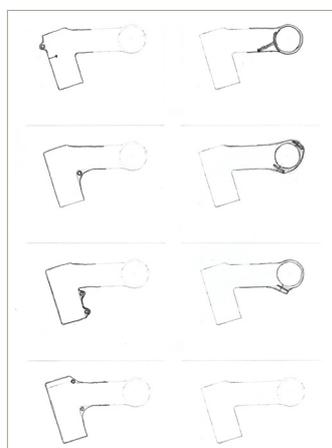
▶特に難題はハイスティックながらコラム固定が簡素でありかつ安全に役目を担ってくれるように設計すること。試行錯誤中のデッサンです。
右のハンドルクランプ部のアイデアは後のフォークステムへの布石となりました。



▲最初のデッサンではボルトを排除した現実的には不可能なイメージが描かれています。但しこの時点で既に75度のアングルとステムの首長38mmは描かれていました。



▲アングルへのこだわり。84度で20mmのスペーサー挿入にほぼ等しいポジションが得られる設計になっています。後の77ステムやスーパーステムへの布石となりました。



▲試作段階ではコラムボルトは2本を左右から締めする方法でした。その後一流工場社長の知恵と技術の援護があって1本化に成功しました。

◀今でこそボルトの先端を出さないスムーズなスタイルは増えてきていますが、これも当時は製造工程上かなりの難関だったのです。

海外でも採用されたエスなステム

事の発端となったNAHBS出展バイクにも多数採用されるようになりました。2011年に“BEST ROAD FRAME”を受賞した「ELLIS」に装着されていたVelo Orangeのエスなステム。(写真左) / 数年後にはバンパーE通勤バイクにも装着されていました。(写真中) / SOMAのエスなステム。(写真右)



多サイズから多用途へと発展するエスなステム

開発当初、装着想定ハンドルをドロップ系と考えていました。しかし多用途化する要望に応えるべく、現在日本では31.8mmに加えて26.0mmと25.4mmのハンドルクランプ径モデルをDixnaとVenoから販売しています。ロード系・ツーリング系・通勤系など、幅広い使用に応えるエスなステムなのです。



～製品化には至らなかったシリーズ～ (不定期連載コラム)

【第1回】 呆れて言葉も出ませんでした・・・

ジェイフィットハンドルについてはVol.23で採り上げていますが、シリーズ2作目となった2005年のジェイフィットモア開発の時に検討した、ドロップショルダー部分を手前に55mmツノのように突き出させたハンドル。これをアルミで……このデッサンをチラッと見た工場の社長は、呆れて言葉もありませんでした。

16年経過して、カーボンでやれないかな～・・とは、思っていない。

